

谷川岳 一ノ倉 南稜

(報告) Nishi

◎日程：2018年5月24日(金)(前泊)～25日(土)

◎メンバー：Nishi(単独)

10時ごろロープウェイの土合に着いた時、さすがに平日のため私の車以外は無かった。少し駐車場の外に出て、星空を眺めていると、思わず、『よし！大丈夫！』と心の中で叫んでいた。

実は会に了解をもらい谷川岳指導センターに届け出を出して、受理されてから、急に今回の山行が怖くなって来ていたのだ。南稜も中央カンテもクライミング的な要素での不安は無い。一ノ倉一泊もなんとかなる。なのに、なぜか漠然とした“恐怖”が湧き上がる。大抵、一人で行くときはいつもそうだ、理由の無い“恐怖”という重たいコートを来ている気持ちになる。ただ、この“恐怖”を自分はいつも大切にしている、何度もトポを見直して、時間に余裕があるか、アプローチに無理はないか、登り返しのシステムに問題はないか、いくつもの事を自問自答で繰り返すようにした。以前、高名な落語家が高座に上がるのが、怖くてたまらない、だから芸を磨くのだ、といったのを思い出す。“恐怖”は、決して自分を束縛するのではなく、コントロールし自分の武器にするものだと思うようにしている。ここまできて、やっと恐怖という重いコートを脱ぎ捨てられた、一言だった。

朝3時ごろ目を覚まして、のろのろとおにぎりをほおぼり、野菜ジュースを喉に流し込む、気温は少し寒いぐらい、歩けばすぐに温まるだろう。指導センターの前を通り、整備された林道をヘッドランの明かりを頼りに歩く。

途中ヤマアカガエルの独特の鳴き声が聞こえた。谷川もすっかり春になったなあと感じる。マチガ沢を渡り、林道の終点に着いた頃には空が白みはじめていた。『モルゲンロートは、雪渓の中で見えるようだな』と思いながら、まだ暗い山稜を見ながら、6本爪を付けて雪渓に入る。雪渓は十分な厚みがあり不安は無かった。今の時期は、楽だなと思いつつも、足元ばかりではなく、前方にも注意する。音もなく落石が、落ちて来るからだ。程なくテールリッジだ、雪渓があるとかなり快適だ。

テールリッジを登り始めると、下から2パーティー来る、少し待ち彼らのルートを確認する。中央稜と中央カンテとのこと、お互いに被らなかつた。もしも南稜なら、譲ろうかと思ってたからだ。



谷川お決まりのモルゲンロート



テールリッジ、右の雪渓が崩れた

荷が思ったより重く、彼らに先に行ってもらおう。中央稜の取り付きに着く頃、「フー！」とため息が出てしまった。中央カンテまで行き適当な場所で、使わない荷をデポする。ロープとガチャ類、行動食を用意して、身軽に南稜テラスへと向かう。

南稜テラスにつくと『どのくらいぶりだっけ?』と思い、ソロのためのビレイ支点を作る。ソロイストにロープを通して、ハーネス、ギアのチェックをして、早速取り付いた。2ピッチで60mギリギリだ、途中ハーフヒッチをしながら登るので基本的には足りない、ただしマムートのロープは60mのロープでもさらに少し長く、またビレイ支点のスリングも長いものを用意したのでおそらく大丈夫だろう。

案の定、1mほど余って一気に登りつめられた。一度降りなくてはならないので、支点を確認して、更にカムで補強の上、グリグリで降りる。降りる際、基本ランナーはロープにヌンチャクを付けたまま残す、振られ止めと、登り返しのとき少しでも軽くするためだ。途中10mから15mおきにカムをセットして、インクノットにする。これは、登り返し時にダイナミックロープの伸びを減らすための策である。そして、カムを使うのは、ユマーリングの際、残置ハーケンに負荷をかけないためである。



2ピッチめあたりから、雪崩を見る。

ユマーリングして登り返す。傾斜があるので、登り返しは、基本歩く感じになった。2ピッチ目の終了点が広いテラスのため少し休んだ。先程降りる途中に大きな雪崩が数回にわたり起こっていた。改めて見るとゾットする、今さっきまで自分が歩いた雪渓に横断する感じで流れてたからだ。

これが土曜日なら、出立の遅いパーティーは巻き込まれてるだろう。明日も崩れる危険はあるが、このデブリを見れば警戒して来れそう。イワヒバリだろうか、つがいが目の前を横切る、中央稜と中央カンテから他パーティーのコールも聞こえる。本日は3パーティー様貸切である。充分休んだので、3ピッチ目の草付きをノーザイルで上がる。ここからがお楽しみの4、5ピッチ馬の背である、高度感があり、爽快だった。登り返しを繰り返して、最終のピッチへ挑む。



全層雪崩、おっかないですね

Vグレード、逆層、最後だけ少しヤラシイ平らなガバがあるが、いつもこれはこれ浸み出しがあり濡れてる。

これに固執すると、かなり怖い。ちょっと視野を広げて、右に縦のクラックをカチで取り、足を上げれば、上の乾いたガバが取れる。マントルを返せば終了点だ。ここでも少し休む。

パーティーや土日では考えられない長い休憩だろう。向かいの国境稜線あたりの残雪が、雪煙とともに雪崩てる。谷川に春の訪れを感じる、短い夏はそろそろだ。オキの耳が見える、トマの耳は人工物が見えた、肩の小屋だろうか。充分休んだので、下降点に向かった、あとは、懸垂だ、思ったより時間が

かかった。途中スタックして、登り返しを余儀なくされたせいである。アプローチシューズで登れる程度の場所ではよかった。南稜テラスに戻ったが、すでに午後2時を回っていた。本日は泊するためテールリッジからビバークポイントを探しながらきたが、なかなかない、見つからない。

もっと早い時間だったら、中央カンテを今日登り始め、5ピッチあたりで1畳ほどのテラスがありそこでビバークも考えていたが、重たい荷物を荷揚げしながらだと、恐ろしく時間がかかりそうだ。

ビバーク適地を再度探して、岩下の狭い場所を見つけた。ハーケンを打ち込みセルフをとり、少しお酒を飲んで、寝る。『うーん、イマイチ』どうしようかなと悩むうちに篠笛を持ってきたのを思い出す。ちょっと久し振りに吹いてみる。幼稚園のころからピアノを習い練習漬けの頃、嫌になると父の部屋に飾ってある(本人は吹かない)篠笛や尺八を吹いては、うさを晴らしていた。ピアノは中学を上がると同様にやめたが、篠笛は自分の楽しみで続けていたものだ。数曲奏でて決心がついた、『下山しよう』。

重いザックを担いだ時、これを上げて登ることが、改めて無理だと悟った。いずれにしても足にきているので、明日になってももう一本やるのは、パートナーがいるのならともかく無理そうだ。テールリッジと雪渓は陽が暮れる前にはおりられた。「また来よう」と心に誓い、一ノ倉を後にした。

《コースタイム》

谷川岳ロープウェイ土合駅 3:49→林道終点 4:34→テールリッジ 5:27→南稜テラス 7:10→南稜終了点 12:15→南稜テラス 14:00→中央カンテ 17:30 出発→テールリッジ 18:48→林道終点 19:15→谷川ロープウェイ土合駅 19:50